

科学への第一歩、「探求心」を育てよう！

アムジェン株式会社 メディカルアフェアーズ本部 坂本友美子（高48）

出身大学：東京薬科大学 生命科学部 分子生命科学科（現在、社会人大学院生として 東京大学大学院 新領域創成科学研究科 メディカル情報生命専攻に在籍）

■はじめに

立高生のみなさん、楽しい高校生活を過ごしていますか？

みなさんに「先輩からの手紙」としてメッセージをお伝えする機会をいただきましたので、これまでの経験を振り返りながら、自身の学生生活やキャリアの紹介をしたいと思います。実のところ反省も多く、いわゆる教科書的なキャリアとは異なりますが、ダイバーシティのひとつとしてお読みいただければ幸いです。

■充実した学生生活

立高での生活は、本当に楽しく充実していました。水泳部に所属しており、シーズン中は朝・昼・放課後にプールに入るため髪は常に濡れており、校内では水着の上にジャージ姿でした。毎日の部活の練習や、部活後に時々行く喫茶店「花伝」（再開発のため、惜しくもなくなりましたが）でのひと時は、30年近く経つ今でも仲間との楽しい会話とともに鮮明に覚えています。

部活や行事に明け暮れる一方、勉強方面で特に心から楽しめることを見つけました。それは、当時化学のご担当であった大町先生が出す「名物」課題レポートです。物質の組成や反応が起こる原理まで、図書館で種類の違う辞典を調べて、新しいことを知ることや、考察することに熱中しました。それまでも筋書き通りの勉強はしていましたが、本当の意味の「学び」の入口はここであったと思います。

その後、東京薬科大学生命科学部に入学し、サイエンスの基礎を固めました。ラクロス部に所属し練習に打ち込みました。

■就職活動は「滑り込みセーフ」

大学3年終盤に差し掛かり、就職活動をスタートしました。学部卒の身でありながら、無謀にも食品研究開発系ばかりを志望し、いくつもの「お祈り（おことわり）」メールを受けました。就職をあきらめ大学院への進学を考え始めた時、就職担当の教授より「対人コミュニケーションが苦手でなく、生命科学や医療に興味があるのであれば、製薬会社の医薬情報担当者（MR）という道もある」とアドバイスをいただき、滑り込みセーフ的でしたが塩野義製薬株式会社で内定をいただくことができました。

MRは、薬の適正使用のため、医師や薬剤師などの医療従事者より自社の医療用医薬品安全性情報を収集・自社品の情報の伝達を行います。「営業は足で稼ぐ」時代で、メールやzoomを使用する現在とは進め方が異なりました。結婚・出産を経てからも業務に復帰しましたが、当時は育児との両立を続けることが難しく、悩んだ末に退職を決意しました。

■米国での研究

その後、家族の研究留学に伴い渡米しましたが、ボランティアの機会を得て無給のラボワークを始めました。研究室のミーティングへの参加で学びを深める傍ら、大学内で実験を行う上で必要とされる研究倫理や実験動物の取り扱いを学び、バイオハザード実験を行う資格を得た後、複数のラボ機器の操作を習得しました。タイミングの良いことに、当時ラボでは **Rosacea**（日本語では「酒さ」）という顔面に限定し赤みや痛みを呈する疾患についての臨床研究の開始が決定しており、解析プロジェクトに研究スタッフとして参画できることになりました。この業務の傍ら、関連の文献を調べ、炎症性皮膚疾患に関与する細胞や既知の炎症カスケードを書き出し、別途研究の可能性を探りました。限定的ではありながら実験と検証を経て、小さな研究費を獲得できたため、自分自身の研究を本格的に行うことを許可されました。ビザも当初の研究者の家族ビザから自身の研究者ビザに切り替え、最終的には特許取得と論文作成につなげることができました。

■メディカルアフェアーズの仕事

米国での臨床研究の仕事を通じて、製薬会社のメディカルアフェアーズという部門の中のメディカルサイエンスリエゾン（MSL）という職を知りました。MSL は、医療の質の向上と患者利益の最大化に寄与することを目的に、担当する疾患領域における最新の科学知識に基づき、社外医科学専門家と同じ科学者同士の立場で医学的・科学的情報のディスカッションを行います。帰国後、代謝性遺伝疾患担当の MSL となりましたが、ある希少疾患の研究会で、まだ世の中に出ていない薬の可能性について、患者さんが医師や研究者と論議を交わしているのが印象的でした。

その後は継続してメディカルアフェアーズの各種業務に携わっておりますが、現在はアムジェン株式会社のメディカルアフェアーズ本部 メディカルオペレーションズマネージャーとして、企業が作成し医療従事者に提供する資材や、医師が作成する講演会のスライドレビュー業務担当として、資材使用承認のためのジャッジメントを通じ、社のコンプライアンスの向上と自社医薬品の適正使用の推進のため活動しています。

■さらなる学びを求める

子供たちもそれぞれ大学・高校・中学に進学し、仕事も落ち着いてきた今がチャンスと考え、大学院受験へのチャレンジを決意しました。いくつか興味のある研究分野を検討の上受検し、本年4月より東京大学大学院に社会人大学院生として入学しました。

大学院での講義には、理学・医学・工学など様々なバックグラウンドの生徒が集まります。リモート環境の中、チャットで質問したり、ブレイクアウトセッションにてクラウド中で同時作業を行ったり、リモートという概念がなかった自分の学生の頃とは比較にならない恵まれた環境は本当に素晴らしいです。社会科学分野での研究はこれまでの経験とは異なり、膨大に存在する医療分野の定性データをどのように定量化し、評価可能であるかを検証するものです。テキストマイニングを取り入れたプログラム開発も行いますので、キャッチアップはハードですが、ビッグデータを通じて医療分野のイノベーションを推進したいという思いのもと、充実した日々を過ごしております。

■ 結び

科学者の道やキャリアを志望されるみなさんへ。科学への第一歩は、未知のものへの興味や、既知であってもその存在に課題を見出すことなどであると考えています。そこから仮定を作り、検証を行い、失敗（成功へのステップアップ）を重ね、可能性や限界について自分の考察を展開してください。時には、本当にそうだろうか？と疑問を持ち探求することも科学です。ぜひ各々オリジナルの探求心を育て、発展させていただきたいと思います。

また、社会人として成長するために、自身の専門性を高めることはもちろん重要ですが、常に世の中の動きを追う姿勢や、傾聴力がポイントとなると考えています。皆さんには、ぜひ立高出身ならではの行動力やコミュニケーション能力を発揮いただきたいです。違う領域とのコラボレーションや他者との議論がきっかけとなり新しい発見や相乗効果を得られることがありますので、新たなシチュエーションにおいても、積極的な参加と発言を試みることをおすすめします。私も、学び続けることが許される環境にいることに感謝を忘れず、さらに社会に貢献できるように努力を重ねていきたいと思っています。ともに頑張りましょう！